□はリンク　　※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名　総　社　※

日付　平成19年12月18日

評価機関名　特定非営利活動法人 ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年

評価調査員　在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

1．評価結果の概要

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

津山市の神楽尾公園のある丘の上に隣接する2つのグループホームが、今年度から2ユニットのグループホーム総社として生まれ変わった。どちらも設立以来、丸4年と3年以上の実績があるホームであるので、2ユニットの1つのグループホームになった意義と特長をどのように発揮し、どのようなメリットが発揮出来るのかは、これからである。幸い、2つのホームの理念は殆ど同じで、大きな特長は「食事を大切にする」ことである。両方のユニットは管理者も今までの管理者が引き継いでおり、運営も今まで通りであり、利用者も何も変わらないので、全体としても何も変わる必要はない。しかし同じグループホームになったので、2つのホームが協働して、地域密着型のホームとしての真価を発揮するよう期待している。

母体法人は保育園を経営している関係上、その保育園児がよく訪問してくれ、利用者と一緒に歌を唱ったり、折り紙をしたり、貼り絵をして楽しむ。利用者はこの時ばかりは、自分の曾孫を見る気持ちで、自分達も童心に帰っているのだろう。その笑顔は言葉で表現出来ない。園児といつも交流出来る事は、このホームの大きな強みである。

地域の人も多いので、家族もよく訪問する。大勢で訪問し、利用者の部屋で一時を過ごしたり、リビングルームで他の利用者とも過ごしてくれる。家族が訪れた時の本人の笑顔は、園児に見せる笑顔とは全く違い、やはり家族に勝る者はない。例え日頃話が出来なくなって、寝たきり状態になっても、本人は家族の顔は忘れない。家族の顔は脳裏に記憶された顔と一致して、豊かな気持ちと喜びを感じる筈である。いつまでも家族の絆をなくさないよう、家族に認知症が重症化しても、表現が難しくなっても、本人の気持ちを伝えてあげて欲しい。これもホームの職員の大きな仕事であると思う。

このホームの食事は美味しい。食器も良い物を使い、三菜一汁と今日は栗ご飯に漬物というランチである。利用者も手伝う人もいるが、ここの職員は料理自慢の人が多い。「今日は美味しい」「味付けもぴったりよ」「これ、どうして作ったん？」「今日は〇〇さんが当番よ」「〇〇さんの料理は美味しい」と利用者から声が掛かる。職員も頑張らなければ。皆、食事を楽しみにしているし、楽しい時間を過ごすグループホームである。

特に改善の余地があると思われる点

介護記録、生活記録の仕方も改良されてきた。家族への連絡も、利用者の写真も貼って、元気な姿を報告している。家族同士でも話題をつくっているそうだ。家族との関係を大切に信頼関係を作っていることは大変心強い。

地域に対してグループホームより情報発信をしたり、積極的に交流を促進して地域の中でグループホームが共存できるよう働きかけていって欲しい。

２．評価結果（詳細）

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か
記述回答	1、自主評価について･･･ 地域との交流も運営委員会や近所との付き合いで活発になってきたので、グループホームの理念を具体化して、地域の人に分かり易くして、発信して行こうと考えている。このホームの食事を大切にして利用者が喜び、健康に役立っている事を地域の人が知れば、野菜や果物等のプレゼントが増えるかもしれませんよ。 2、全体的に見て･･･ 「出来る事は、一人ひとりにしてもらう」「自然の中でゆったりと生活して貰う」「美味しい食事をしてもらう」「自らの役割をしてもらう」が、このホームの理念である。その理念を具体化して、今年度は『何か一つ新しいことを感じて貰う』『一人ひとりに笑顔が見られる毎日』であり、職員は、利用者一人ひとりにそれぞれが感動するきっかけ作りに励んでいる。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か
記述回答	1、自主評価について･･･ 特に改善項目は挙げていないが、日頃から利用者の自分で出来る事をして貰っている。ぬり絵･習字･ちぎり絵･ドリル等、一人ひとりがやろうとする事を実行し、その成果が、廊下や居室に貼り出され、昨年より多くなってきた。 2、全体的に見て･･･ 神楽の里のユニットの方はリビングルームの広さも大きいし、外にも一寸したスペースやベランダがある。外のスペースでバーベキューをしたり、屋外での食事やお茶を楽しめる。今までも何か大人数になったり、家族との食事会等では、こちらのスペースを利用していたそうだが、これからはこのスペースも活用して、両ユニットの交流を高めていって貰いたい。ここから下は急な勾配の道で、利用者が出歩くには少し危険で、要注意である。

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
記述回答	1、自主評価について･･･ 特に改善項目として取り上げていないが、ケアサービスについては、個々の項目を改善するというよりは、職員の知識や技能、そして人間としての質について、研修や会議で話し合って向上していく事によって、全体のレベルアップをしていこうとしている。 2、全体的に見て･･･ 「職員は良い人の集まりで、皆一人ひとりが自分で考えて仕事をしてくれる」ということが、このホームの大きな原動力となっている。又「職員が出勤してくると、利用者が『お帰りなさい』と笑顔で迎え入れてくれた。これは利用者が、このホームを自分の家と思い、住み着いている気持ちが表れている。大変嬉しかった」と職員が話してくれ、働き甲斐を実感しているようだ。職員が利用者一人ひとりを大切に思い接している日頃の行動から生まれてきたのだろう。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。
記述回答	1．自主評価について･･･ 特に改善項目として取り上げていない。運営推進会議も開催して、地域の人や家族に対しても意見交換をしながら、今後も交流を深めていくだろう。母体の保育園長とグループホームの管理者、共によく意思疎通しているので、運営にも問題はなさそうである。職員の処遇も母体全体で共通している。 2．全体的に見て･･･ 家族との連携を高め、毎月家族一人ひとりに、利用者の写真入りのペーパーに報告書を作り、利用者の感動的な言葉や活気のある生活ぶりを知らせている。担当者も手紙を添えており、家族からも通信や反応が高まっている。地域の行事や保育園の仕事に参加したり、ホームからの情報を地域に発信して、ホームの事も理解して貰えるよう新聞の作成も検討している。地域の人も色々な人が、このホームを訪れるよう働きかけをしていって欲しい。